

事業番号	事務事業名	シニアスクール推進事業費	所管課名	生涯学習課	令和 2 年度課長名	黒瀬 豊
05975	政策名	3 創造豊かな教育・文化の里づくり	係名	生涯学習係	担当者・シート作成者	ソーター クリストフ
	施策名	32 生涯学習の推進	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	<p>おおむね50歳以上の町民が鏡野中学校で週1回(火曜日)、国語・社会・保健体育・美術などの教科を学ぶ。主な事務としては、①カリキュラムの作成、②講師の手配、③学校との連絡調整、④担任意務等がある。</p>	<p>平成14年度に鏡野中学校建設検討委員会で、新校舎には地域の人が入りやすく、集まることのできる部屋を設けてほしいとの声が出たことがきっかけとなる。その頃、岡山市岡輝中学校のシニアスクールを知り、町教育委員会が先進地視察を行い検討した結果、鏡野中学校を会場に平成16年8月30日、シニアスクールを開校。</p>

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア 50歳以上の自力通学可能な町民	ア 50歳以上の町民人口	人	見込 実績	7,200 7,195	7,200 7,122	7,200 6,947	7,200	7,200
イ 鏡野中学校の生徒	イ 鏡野中学校生徒数	人	見込 実績	308 308	313 313	313 313	313	313
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア 高齢者にも学習してもらう	ア 通学している人数	人	目標 実績 達成率	15 12 80.0%	15 9 60.0%	15 12 80.0%	15	15
イ 生徒に学ぶ姿勢を育んでもらう	イ 鏡野中学校生徒数	人	目標 実績 達成率	308 308 100.0%	313 313 100.0%	313 313 100.0%	313	313
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア カリキュラムの作成	ア カリキュラムの作成件数	回	目標 実績 達成率	90 102 113.3%	90 94 104.4%	90 62 68.9%	90	90
イ 学校との連絡調整	イ 学校との連絡調整回数	回	目標 実績 達成率	10 14 140.0%	10 14 140.0%	10 16 160.0%	10	10
ウ 講師の手配	ウ 手配した講師の人数(実人数)	人	目標 実績 達成率	16 15 93.8%	16 16 100.0%	16 14 87.5%	16	16

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	10	項	06	目	01	大事業	中事業	予算上の事業名	事業番号	
	一般会計		教育費		社会教育費		社会教育総務費	10	01		シニアスクール推進事業費	05975	
予算(千円)	30年度実績	1年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度見込	前年比	決算(千円)	30年度実績	1年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度見込	前年比
国庫支出金							国庫支出金						
県支出金							県支出金						
町債							町債						
その他特財	541	934	541	901	901	-393	その他特財	511	658	436	500	500	-222
一般財源	404	0	0	0	0		一般財源	260	0	0	400	400	
合計	945	934	541	901	901	-393	合計(A)	771	658	436	900	900	-222
財源名称	生涯学習課基金繰入金			従事正職員人数				1	1	1	1	1	
	シニアスクール受講料			延べ業務事務時間				305	298	290	290	290	-8
				人件費計(千円)(B)				1,032	1,043	969	972	972	-74
	最終予算額	541千円	予算執行率	80.5%	トータルコスト(A+B)				1,803	1,701	1,405	1,872	1,872
主な支出事業内容(予算)	報償金			448千円			主な支出事業内容(決算)	報償金			376千円		
	消耗品費			50千円				消耗品費			33千円		
	通信運搬費			19千円				通信運搬費			19千円		
	保険料			15千円				保険料			7千円		
	委託料			9千円				委託料			0千円		

事業番号	05975	事務事業名	シニアスクール推進事業費	所管課名	生涯学習課
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
H27~29は希望者多数のため入学許可できない者、辞退者もあった。現在は減少傾向にある。
②この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
開設後は週2回授業を実施していたが、現在では時間数を増やした週1回で行っている。希望者多数の場合、入学選考基準を設けた。
③この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
シニアスクール生からは「通学や授業が大変楽しみである」や「中学生との交流や共同生活が嬉しい」といった意見が多く聞かれる。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	50歳以上の住民を対象とした事業で、入学許可選考基準など平等に生涯学習の機会を提供しており、政策体系の生涯学習の推進に結びついている。
	②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	学校施設の使用、授業体制の協議などは町で行うべきであると考え、今後考えていかななくてはならないものである。	
③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	当初の目的から言えば適切である。	
有効性 評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	現時点における状況なら成果としては目的水準に達している。
	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	実際に学校に行って、子どもたちへ高齢者の学びの姿を見せることという点では影響がある。	
⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	現状のやり方が最上であると考え。	
効率性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	生徒からの受講料の徴収で経費の一部に充てており、節約しながらの実施をしているため削減の余地はない。
⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明		
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	町内全域に広報で公募しており、公平・公正に対応できている。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果		②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	少数の入れ替わりがあった中で、クラスの雰囲気も変わり新しい空気の中で学習が行えている。机で学ぶ授業に併せ目で見ている事のできる授業を行うことが出来た。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 毎年の生徒数の確保が問題となってくる。																							
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
生徒数同様、講師の高齢化も課題となる。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							